

祝 辞

一般社団法人 日本建築学会
会長 竹内 徹



建築物の試験・研究、評価、審査、認証および情報普及等を通じて、建築の質の向上を図り、安全で安心な国民生活の場の構築に、長年にわたり貢献してこられた一般財団法人日本建築総合試験所の創立60周年、誠におめでとうございます。1964年の創立以来、建築に関する総合的な試験機関として建築界を支えてこられたことに深く敬意を表します。近年では指定確認検査機関、指定構造計算適合性判定機関としても活動の幅を広げられ、我が国の社会課題の解決に総合力をもって貢献する第三者機関として、非常にユニークな存在だと日ごろより感じ入っております。

さて、日本建築学会では、今年5月、「関東大震災100周年提言：日本の建築・まち・地域の新常識」を発表しました。過去の地震災害を俯瞰しつつも、次の100年に明るい未来を目指すための「道しるべ」となることを目指しました。100年後も変わらないであろうゴールを「新常識」とし、①住まい手・利用者・管理者の新常識、②地域の一員としての新常識、③作り手の新常識、④都市防災の新常識、⑤地域の行政・議会の新常識、⑥社会の新常識、⑦教育の新常識、に整理しました。

なかでも、最も重要な新常識として「優良化更新」が挙げられます。これは、建築物を維持管理する際により良くなるよう更新することで、建築の経済的な価値を維持する（さらには向上する）ことを意味し、「経年劣化」の対義語でもあります。

貴試験所の「GBRCビジョン&アクションプラン2030」では、建設市場が新設から社会インフラの再構築へパラダイムシフトしていることに敏感に対応していくことが書かれています。試験研究、製品認証、確認評定、構造判定といった総合力をいかに発揮されることで、我が国の建築や社会インフラの「優良化更新」が行われ、直面する社会課題の解決へとつながることを大いに期待しています。

日本建築総合試験所の今後ますますの発展と活躍を祈念しております。

祝 辞

一般社団法人 住宅生産団体連合会
会長 芳井 敬一



一般財団法人日本建築総合試験所が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。貴法人は1964年の設立以来、公正中立な第三者機関として、建築全般に関するさまざまな試験・研究を通じ、建築の質の向上と安全性を確保するとともに、国民生活の向上に努めてこられました。

また、国内における住宅分野においても、供給不足への対応が大きな課題であった設立当時、住宅の大量供給ニーズに応えながら品質の安定的向上を目指し、建材産業および住宅産業の基盤が築かれた重要な時代でした。住宅を含め建築全般に関するさまざまな試験・研究を通じ、住宅の質の向上と安全性を確保するとともに、その成果を着実に標準化していくことで、建材と住宅の質的向上に多大な貢献をなされました。

その後、我が国の住宅政策は、「量の確保」から「質の向上」へ、さらに長期優良住宅制度の創設など、より「良質な住宅ストック」の重視へと大きく転換するとともに、住まいへのニーズは多様化してまいりました。そのような中、貴法人はさまざまな業務を通じて、国民の生活基盤である住宅の品質の確保と性能の向上に多大な貢献をされてきたことは、ひとえに、関係の皆さま方のご尽力の賜物であり、深く敬意を表しますとともに、改めて感謝を申し上げます。

住宅産業においては、複合建築物を含め非住宅の取組みも始まっています。カーボンニュートラルの推進や災害に強い住まい・まちづくりなど、多くの課題への取組みが求められており、少子高齢化や人口減少が見込まれる社会にあって、将来世代にわたって住み継がれる良質な住宅・建築ストックの形成を急がねばなりません。高品質で信頼性の高い試験・研究、評価等に期待される役割はますます高まっており、貴法人が掲げられた「GBRC ビジョン&アクションプラン 2030」に沿って、これまでの社会貢献の理念を踏襲するとともに、法人としての社会的価値を更に高め、顧客からの信頼性を高める取り組みを進められ、さらなる飛躍を遂げられますことを期待しております。

結びに、貴法人の益々のご発展と関係の皆さま方のご健勝を心から祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

一般社団法人 日本建築構造技術者協会
会長 小林 秀雄



このたび、一般財団法人日本建築総合試験所様が創立60周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

1964年のご設立以来、日本建築総合試験所様は、建築に関わる構造、材料、耐火、環境、数値解析などの幅広い分野において、数多くの試験研究、技術開発、普及啓発、性能評価、認証事業などを通じて、日本の建築技術の発展と安全性の向上に大きく貢献されてまいりました。

特に、近年では、CO₂削減に向けた社会情勢の変化や省エネ技術・DXなど様々な技術革新に対応し、木構造の中大規模化に伴う地震対策、耐火対策、省エネ対策、情報化社会への対応など、多岐にわたる分野で研究開発を進め、新たな技術や基準の策定と普及にご尽力されております。

日本では兵庫県南部地震や東北地方太平洋沖地震など度重なる大きな地震に見舞われてきました。また、地震だけでなく、いく度かの台風や大火を経験し、それらに関連する技術や設計法も見直されてきています。その結果、我が国の建築に関わる耐震や耐火に関わる防災技術は世界に誇れるほど非常に高い技術を備えているといっても過言ではありません。

建築構造技術者は、試験の裏付けがある材料を試験により検証された接合方法により接合させて建築の構造体を構築していきます。その構造体により支えられた建物の中には多くの人々が生活をしています。その人々の生命や財産を守り、そして社会を守るところに、日本建築総合試験所様のこれまでの成果が大きく寄与しており、これからも高いレベルで提供されるものと信じています。

今ある日本の建築分野における安全の礎を築いてきたのも日本建築総合試験所様のご尽力の賜物であります。今後も技術・品質の向上を目指し、社会からの高い評価と共に安心・安全な社会を築いていくことを期待しております。

日本建築総合試験所様のますますのご発展とご清栄をお祈り申し上げます。

祝 辞

一般社団法人 日本建築材料協会
会長 松本 将



このたび、一般財団法人日本建築総合試験所が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴試験所は昭和39年の発足より、この60年間、日本の建築技術の発展と安全性の向上に多大な貢献をしてこられました。設立当初から掲げられている「建築物の質の向上」「安全性の確保」「国民生活の向上」を目指した弛まぬ努力に、深く敬意を表します。

貴試験所が行ってきた高度な研究・試験は、日本の建築技術にとって不可欠な存在であり、建築物の設計や施工において多くの指針となっています。耐震や耐火・防火技術、持続可能な社会を目指すための環境負荷低減技術など、多岐にわたる分野での先駆的な取り組みは、国内外で高く評価され、建築業界全体に多大な影響を与えてこられました。

また、貴試験所の皆様の日々のご努力とご研鑽により、日本の建築技術は飛躍的な進歩を遂げています。貴試験所の存在は、日本国内だけでなく、世界の建築技術の発展にも寄与しており、その貢献度は計り知れません。これもひとえに、貴試験所の皆様の卓越した専門知識と献身的な姿勢の賜物であると深く感謝申し上げます。

特に、私共が取り組む新しい建築材料の開発や改良においても、性能評価や革新的な建築手法の実証実験など、貴試験所の支援なしには成し得なかった成果が多々あります。これらの経験を通じて、重要な役割を貴試験所が果たしていると改めて認識いたしました。

今後とも、長年の歴史と伝統に裏打ちされたその豊富な知識と技術力を活かし、「建築の質の向上を図り、安全で安心な国民生活の場の構築に努めます」との法人理念のもとに、さらなる飛躍と発展を遂げられ、建築技術の向上と安全で持続可能な社会の実現に向けてますますご活躍されることを心より祈念申し上げます。

改めまして、創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げ、祝辞とさせていただきます。

祝 辞

一般社団法人大阪建設業協会
会長 錢高 久善



日本建築総合試験所様が創立60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。貴試験所は、1964年の創立以来長きにわたり、建築全般に関する試験・研究等に公正中立的な立場で建築の質の向上と安全性の確保に寄与されてこられたことは、品質・安全面において建設産業を多大なるご支援いただいていることに他ならず、厚く御礼申し上げますとともに、国民生活の向上に大きく貢献されてこられたことに対しまして謹んで敬意を表します。

さて、今年元日に発生した能登半島地震から9か月以上が経過し、被災地では生活再建に向けて、地域建設会社をはじめとした建設業界の奮闘により復旧復興が急がれているところでもあります。一方、近畿地方では南海トラフ地震などの巨大地震や大型台風などの自然災害の発生が危惧される中、このたび法定化された国土強靱化実施中期計画を踏まえまして、老朽化したインフラの更新も含めた防災・減災に資する社会資本整備の弛みない推進を通じて、地域住民の生命や財産を守る建設産業の社会的使命を果たしていかなければなりません。

この建設産業の社会的使命を果たしていく上で、発注者や施工者など建設工事における直接の当事者の務めや責任はもちろんのこと、確かな技術や知識を有されている第三者機関による試験や評価、審査も欠かすことはできず、ステークホルダーだけでなく、世間の目がますます厳しくなっている中、品質の確保・向上が最重要事項の一つであることは間違いありません。

貴試験所におかれましては、社会貢献という理念に向けて策定された「GBRCビジョン&アクションプラン2030」の実現に取り組み、今後も高品質で信頼性に基づいた試験・研究等により、私共建設産業の拠り所として、さらなる建築の質の向上や安全性の確保にご尽力いただきますとともに、貴試験所の益々のご発展とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
会長 樋上 雅博



一般財団法人日本建築総合試験所様の創立60周年にあたってのご祝辞を申し上げます。

一般財団法人日本建築総合試験所様におかれましては、創立60周年を迎えられましたこと誠に喜ばしく慶賀に堪えません。貴所の関係各位の熱意により日本の建築技術や材料の質の高さが堅持されていることに敬意を表したいと存じます。60年前と言えば高度経済成長期を経て東京オリンピック、続いて万博が開催され、超高層ビルという新時代の建設が始まった時期でもあり、日本の建築技術や建築材料にとって大きな発展の起点になった時期であり、設計並びに構造技術において革新的な転換となった時期でもあります。そういう時代にあつて貴所は試験、実験、検証などを通じて常に安心・安全な新材料、新技術を確立される大きな礎となつてこられたことは多大なるご功績であるとすべての関係者が認めるところでございます。今や我々の設計を取り巻く環境の変化はさまざま、設計技術での3次元化のみならず建設工法のデジタル化、ロボット化、3次元化などの多様化に加えて、情報処理ではAI、クラウド、DXといったデジタル革命がいまや業界を席卷する時代になっております。そのような時代にあつても、工学、力学、物理的な評価において材料や建築技術の基礎的な事象の上に立脚しつつ革新的な評価方法なども取り入れられ、より斬新で近未来的な建築にチャレンジされている姿にはとても頼もしく建築の将来を担いかつ先導頂くに充分な組織力を発揮されているものと存じます。我々建築士事務所協会は〔意匠、構造、設備設計、環境、まちなみ、景観など〕の分野で新しい技術や省エネ、再エネのような環境負荷を低減し持続可能な社会を実現する為の新技術などの普及活動を通じ、会員や社会に提供することにより社会貢献を為しているところではあります。貴所のもつ技術評価、性能評価、法令評価などの技術水準が増していくと同時に我々と目指す方向性を共有させて頂き、ともに建築業界発展に貢献させて頂ければ幸いに存じます。これからも今までのご経験と知識を柔軟に活用され、日々新しい情報を社会に発信し建築業界発展に大きな役割を發揮されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。